

## 支部新人総合大会激励会 校長挨拶

平成30年9月21日（金）

支部中体連新人総合大会が来週に迫りました。ただし、新人戦は、来年の中体連本番へのプロセスであり、ゴールではありません。勝っても負けても、それを明日からの練習にどう生かしていくのが重要です。試合に勝って、やればできるという自信につなげるのもあるでしょうし、新人戦で負けたために、その悔しさを冬の厳しい練習にぶつけ、来年の中体連で雪辱を晴らすというのものもあるでしょう。

私は今から20年ほど前に、いわき市にある中央台北中学校で野球部の顧問をしていました。中央台北中では、選手や保護者の皆さんに恵まれ、2年連続で中体連県大会に出場し、優勝、準優勝することができました。その時のチームはいずれも、前年の新人戦では市大会で敗れ、県大会には出場できませんでした。その悔しさを、翌年の中体連本番まで忘れることなく練習を重ねたことを、今でも鮮明に覚えています。

その経験から学んだことは、負けることは誰しも避けたいものですが、失敗から学ぶことの方がたくさんあるということです。失敗を恐れずにチャレンジすることが大切なのは、たとえ失敗しても、そこから学ぶことがたくさんあるからなのです。練習でも試合でも、最大の敵は、「自分の弱さ」です。部活でも「自分の弱さに打ち克つ」というチャレンジを大いにして、多くのことを学んでください。

バレーボール部は新人戦には出場しませんが、今の思いを来年の中体連にぶつけられるように、体・心・技を十分に高めてください。新人戦に出場する、卓球部、そして野球部の健闘を祈ります。